

## 宇陀市総合計画策定 基本理念（案）検討資料

### 【基本理念案（叩き台）】

1. あらゆる地域資源を活かし、交流と経済が生まれるまちづくり
2. 自立した市民と元気な職員による、協働のまちづくり
3. 若い世代が移住・定住しやすいまちづくり
4. 自助・共助・公助で、暮らしと健康が守られる、安全・安心のまちづくり
5. 歴史・文化を引き継ぎ、活かすまちづくり
6. 持続可能で利便性の高いコンパクトなまちづくり

### 【キックオフシンポジウム（みらい会議）、みらい会議第2弾での意見のまとめ】

- ※( )内の数字は、基本理念案（叩き台）の番号に対応します。
- 宇陀市の現状を強みにし、資源を総合的に活かした魅力あるまち(1)
  - 自助・共助・公助のバランスが取れたまち(4)
  - 多様な観光客を呼び込み、受入れる仕組みのあるまち(1)
  - 地域資源に関する情報を蓄積し、効果的に発信できるまち(1)
  - 教育の質が高く、充実したまち(3)
  - 子育て世代が定住しやすい環境のあるまち(3)
  - 宇陀市の特産品を活かした、未来に対応できる農林業の仕組みがあるまち(1)
  - 多様な雇用や働き方があり、若い世代が定住できるまち(3)
  - 高齢者が安全に、安心して暮らせる環境があるまち(4)
  - 交通ネットワークが整備され、公共交通が有効に活用されるまち(4)
  - スポーツを通じて、地域振興が図れるまち(1)

### 【職員参画に基づく意見のまとめ】

※( )内の数字は、基本理念案（叩き台）の番号に対応します。

#### 〈各部会共通意見〉

- ◎宇陀市の地域資源を、積極的・効果的に活用する。(1)
- ◎市と市民、地域の連携をより一層深める。(2)
- ◎職員不足を補う工夫をするとともに、若手職員の安定雇用を図る。(2)
- ◎公共施設の適正で計画的な運営、維持管理を行う。(6)
- ◎雇用創出、子育て・教育環境の充実を図り、定住に結びつける。(3)
- ◎交通網の整備と公共交通の充実を図る。(6)

#### 〈総務・企画財政部会〉

- 議会、委員会など情報発信を積極的に行う。(2)
- 災害時に対応できる、庁内連携、市と地域の連携を促進する。(4)
- 雇用の創出・拡大や徴税率の向上により、税収確保を図る。(3)
- アウトソーシングやIT化を進め職員減少に対応し地域に出向く元気な職員を増やす。(2)

#### 〈市民環境部会〉

- 多様化する人権問題について、若者を中心に市民意識の向上を図る。(2)
- 雇用創出により人口増につなげ、空き家・空き地など集落維持の課題を解決する。(3)
- 行政サービスの効率化を図るとともに、市民に寄り添うサービスを維持する。(2)
- 若手職員を採用し、庁内体制の継承と維持を図る。(2)

#### 〈保健・福祉部会〉

- 医療・介護・保育に携わる人員不足への対応を図る。(2)
- 家庭やコミュニティでの、健康・子育て・見守りの力を育む。(4)
- 健康増進や保健、出産・子育てなどに関わる窓口・施設のコンパクト化を図る。(6)
- 諸施設が効率的に活用できる公共交通の整備を図る。(6)

#### 〈農林・商工部会〉

- 特産品のブランド化を積極的に行う。(1)
- 販売体制・販売網の開拓、観光との連携などにより、農業所得の増大を図る。(1)
- すでにある雇用の効果的なマッチングも含め、雇用の創出を図る。(3)
- 空き家活用のノウハウを蓄積・共有し、展開を図る。(1)

#### 〈都市整備・土木部会〉

- 地籍調査の位置づけを明確にし、関連する事業の円滑な推進を図る。(1)
- 公共施設の維持管理について優先順位を判断し「身の丈にあった」適正な運営を行う。(6)
- 技術が継承できる、安定した職員の雇用を図る。(2)

#### 〈教育部会〉

- 人口減少、少子化に対応した諸施設の効率的な運用や、コンパクト化を図る。(6)
- 職員の人員不足に対応した機能的で臨機応変な対応が可能な体制をつくる。(2)
- 質の高い教育・保育のための人材確保を安定的に行う。(2)
- 諸施設が効率的に活用できる公共交通の整備を図る。(6)
- 諸施設が本来の役割を果たせるように運営の仕組みの改善や他の施設との連携を図る。(6)
- 町並み保存が継続できる体制をつくる。(5)



## キックオフシンポジウムでのご意見

〈宇陀市の資源を活かし、心豊かに暮らせる魅力あるまちづくり〉

●宇陀市が持つすべての物を駆使して魅力ある町に（人・もの）●宇陀市を魅力ある町に●心豊かに暮らせるまち●歩いて暮らしが完結できるまちづくり●現状（いなか）を強みにしたまちづくり●つむじ風を起こして宇陀がもうける、にぎわう●宇陀市を魅力ある街へ●専門学校・文化施設の充実

〈自助・公助・共助のバランスが取れ、災害に強いまちづくり〉

●自助共助公助バランスのよいまちづくり●自助・公助・共助の助け合いができる町へと発展させる●自助・公助・共助の分かち合いによる地域力の向上●災害時の対応（自助、共助、公助）隣近所、村全体、行政と情報を共有して助け合い、災害を乗り越える●コンパクトな街（町）作りをする●市役所・議員、市民の関心を深める●バイオマスで電力発電で宇陀市の電力の自給完全化する

〈多様な観光客を呼び込み、受け入れる仕組みづくり〉

●観光・移住のしくみ作り●短期（一週間～2.3ヶ月）体験観光●長期滞在できるところをつくる●大規模なホテルの誘致●マンガ・アニメとコラボ●アニメ・ゆるキャラ等で世界に発信して藝人観光客や都会人の観光客を誘い込む●宇陀をもっと知ってもらう宣伝活動が必要●フォレストビュー、キャッスルビュー、レイクビューなどドローンを使った画像●自然をPRして人を呼び●地域にお金をおとしてもらうために観光の受け入れのしくみ作りを強めていく●特にインバウンドに向けての英語表記、英語のチラシ案内●先にインバウンドに注目してもらい流行好きの日本人にも注目してもらう●プラス@の魅力（歴史、葉膳、ラリーイベント可能な農道etc）を掘りおこし、全国にSNS等でアピール！●全国（特に関東方面）への奈良の魅力を発信する●ジオラマ等、鉄道博物館を作る●宇陀市の観光をツイッター等で世界に発信し、観光客の増加をめざす●コンサート（若者）シンガーソング歌手に来てもらって5～10万人に宇陀市にきてもらう●水族館・プラネタリウム・テーマパーク等を作りましょう●室生に温泉をほる！

〈IT・新技術を活用した、地域資源に関する情報の蓄積と効果的な発信〉

●テレビとネットを最大に利用●AIに考えてもらお●先人の知恵のデータベース化●ドローンの活用●操縦士の育成でドローン活用まで短期導入●発信上手になってじゃんじゃん人を呼び込む●古者の知恵を保存●古者が直接指導するシステム●宇陀の資源を（自然・史跡など）を総合的に活用する施設、組織をつくる●様々なデータの保存●機械化・IT化

〈教育環境の充実と向上〉

●大学の誘致・セミナーハウスの誘致●教育の質が高い町●少人数を強みに！●大学の誘致●大学の能楽部の誘致●教育機関の誘致●TEOみたいな学校をつくればADHDと言われるような子共を持つ親が移住してくる●塾の代わりになるような教育の場をつくる●子共と親の負担を減らす●保育所・幼稚園・小中学校を統合して子どもの教育を充実させる●市内で学習できる場をつくる（地域ごとでなく）●先生の質を向上させて教育の充実につなげる●文化財をネットワークした教育のまちづくり●子共に社会での自分の夢の可能性を感じさせる●社会経験のある経営者に講師になってもらいお金のしくみを教える

〈子育て世代が定住しやすい環境づくり〉

●子育て世代が移住しやすいまち●子育て世代の定住環境づくり●他都市との差別化●子育て世代が働くことができる職場の増加及び託児所つきの事業所の増加を啓発していけばよいのでは？●保育士さんの負担を少しでも減らせるようにし、また賃金に関して他都市とくらべて少ないため賃金を上げて、少しでも多くの保育士さんを確保できる取組みをしたい。●子育て環境の改善とPR（他都市とのちがいを）●子育て世代の家族を増やすような施策●移住希望者をとりこぼさない受け入れ態勢万全のまちづくり●榛生昇陽高校自転車競走部をとおしての子育て支援教育●子育て、教育支援の充実にもむけて（少子高齢化を背景に）→教育内容UP!!→他地域から子どもを呼び込む●保育士をより多く獲得して、子育てしやすい町に

〈地域の特徴を生かし、未来に対応できる農林業の仕組みづくり〉

●農所得をサラリーマンの2倍に！米の販売6000円→宇陀産30,000円に！●農と林の所有権統合、大規模経営で第1次産業効率化！●農林業の個人経営から組織経営に！●ITが農林業を発展させる●IT化による農の構造改革！トラクター等…すべて全自動で→収穫はドローンでする→アマソンの様な倉庫を作る→そこから直で売る。●宇陀市のブランド米・特産品を作る●地場産業の育成に注力、観光事業を志向する。●耕作放棄地・棚田の復活、絶滅危惧種の昆虫復活→魅力ある地域になる●宇陀市の農業を世界へ●農による健康寿命のアップ（現在、奈良県は男子で3位）→宇陀健康野菜を市場の3倍の値段で売る。

〈多様な雇用、働き方の掘り起こしと創出〉

●市内にある雇用を掘り起こし、都会での仕事以外を求める人に広くアピール●モノの域外輸出ヒトの域内輸入●宇陀市にIT企業や通販会社を誘致する●Uターン時、実家の手入れに費用がきびしい●雇用の創出による人口流出の防止●若者が残れる町に●ルート製菓みたいに市職員にも副業さしたれ！●期間限定の定住●アマソンドットコム、ジャパネットタカタ等の通販の会社を創業する、又は誘致すること●元気・お金・時間・知識・経験・人脈のある退職者さん、どうにかして！●若い世代（学生）を宇陀市に残ってもらうための魅力ある教育と環境作り

〈高齢者が安全、安心に暮らせる環境づくり〉

●介護施設（例えば300人～400人）を榛原、大宇陀、室生、菟田野に3箇所づつ作る・病院診療科充実・高齢者が安全安心に買い物、病院等へ行けるシステムがほしい●老若男女集える、交通手段を整備、医療を整える●宇陀市病院のレベルアップ、子育て支援、移住者支援

〈交通ネットワーク、公共交通の充実と効率的な活用〉

●駅北より踏切りを通らずに駅南へ道路を早急に作る●100円ライドシェアで小遣いとながり作り！●公共交通の整備●仕事がある都市部へ行きやすい（通勤）町●交通の便を良くする●インフラ整備！●自転車の数、バスの本数増やす！●高速道路を作る●車が対向できる道の住宅地の実現を望みます●公共交通の充実●交通ネットワークの有効な管理、活用に向けた整備●交通網の整理（スクールバス・コミュニティバス・路線バス）●過疎地に活力を、有効利用して活性化をはかる

〈スポーツを通じた地域振興の推進〉

●地域スポーツの活性化中学、高校の部活の地元支援●小中高一貫したスポーツ教育●元プロ選手を採用してスポーツ普及に役立てる●自転車部と企業提携して企業誘致・スポンサーに●市民参加のスポーツへ！女性、子ども、高齢者のファン拡大●男女共同参画スポーツの実現●近畿インターハイの（自転車）継続開催●スポーツ施設の充実化

**職員参画でのご意見**（▲：職員参画会議でのご意見 △：専門部会での追加されたご意見）

〈総務・企画財政部会〉

▲議会や委員会での審議等が、市民に十分伝わるようには発信できていない。▲自治会など地域組織における次世代の担い手が、育っていない。▲災害への対応に必要な、庁内の部署間の連携、市と市民の連携が不十分である。▲山間部の空き家の増加にも関わらず、移住・定住を促す仕組みが不十分で、活用が進まない。▲葉草などの宇陀市の資源を活用した仕事をつくらせていない。▲人口減少に伴い、税収が減少傾向であり、市内での雇用の創出が重要になっている。▲予算が硬直化し、新しい投資が出来にくくなっている一方、設備の老朽化に伴うランニングコストが増大している。△財源確保のために、徴税率の向上や公有財産の活用を検討する必要がある。△業務量増大のため、モチベーションが低下し、地域に出向く元気な職員が少なくなっている。△職員数減少に対応するため、アウトソーシングやIT化を促進するべきである。

〈市民環境部会〉

▲市域が広域で、職員も不足しているため、本来の行政サービスが出来にくくなっている。▲40歳代以下の職員が少なく、知識や経験を伝える時間もないため、今後庁内体制を維持できなくなる可能性がある。▲人権交流センターなど、地域の身近な行政窓口が失われることへの不安が市民にある。▲健康寿命を延ばすために必要な健診の重要性が、市民、特に自営業者や若者世代に伝わっていない。▲空き家・空き地が、都市部、山間部ともに増加し、草刈りや建物管理が不十分な状況が生じている。▲人口減少に伴い、日常的な集落の維持管理が、深刻な問題となっているが対応ができていない。△多種多様化する人権問題について、市民意識の向上を図る必要があり、特に若者世代の参加を促すことが大切である。△男女共同参画の意識が、地域組織においてはまだ十分浸透しておらず、進展しづらい。△自治会が人手不足で、最終的には行政に不可が掛かっている。人手があれば解決できる問題も多いので、雇用創出が重要である。△市民がたらい回しにならないようなサービス（窓口の一本化など）ができればよい。△窓口が一つでサービスできれば、職員の業務の効率化にもつながると考えられる。

〈保健・福祉部会〉

▲医師が不足し高齢化が進んでいるのと同時に、医療機関が少なく閉院もあり、医療体制が弱体化している。△介護職員、保健師、医療技術者も不足している。▲生活習慣病を予防すること無く、重症化してから受診する人が増加し、医療費の増加を招いている。▲本来、家庭や地域で相談し解決できていた問題（介護、メンタルなど）が、行政に持ち込まれるようになっている。▲健康を維持するための健診のPRが、特に若者世代や壮年層にたいして不十分である。▲働く場もなく、小児科も少ない宇陀市では、出産・子育てもしずらい状況にある。▲保育士が不足し、保育園などで対応できる子どもの数が限られている。▲園舎への交通の便が悪く、また駐車場も不足しているため、保護者と保育士の相談の時間が取れない。▲園舎など諸施設の老朽化が進んでいるため、対応に時間を割かれ、本来の業務が十分対応できない。▲公共交通が不便であり、高齢者、就学世代、子育て世代に影響があり、施設も十分活用されない。△家庭での「子育て力」が低下し、コミュニティでも見守る意識が希薄化している。△子育て世代の一人親化が進行し、行政負担が増加している。△健康増進や保健、出産・子育てなどに関わる窓口・施設の本一化を図る必要がある。△認知症の人を支える地域づくりが必要である。△市民病院の役割はあるが、健全経営化を図る必要がある。

〈農林・商工部会〉

▲農林業、毛皮革業に携わる方々の所得が低く、生計が成り立たない。そのためこれからの担い手が育たない。▲よい農作物はあるが、ブランド化できるものが限られる。▲知名度のある特産品があるものの、大量に生産・販売できる体制が整っていない。▲特に山間地の段々畑の荒廃が進み、勝手に自然に帰っている状況である。▲一部に熱心に取り組む農家もあるので、成功例を蓄積していくと効果的かもしれない。▲空き家活用をするためのノウハウがないため、なかなか進まない。▲公共交通のネットワークが不十分で、市外からの来訪者の妨げになっている。▲販路拡大などを効果的に進めるためには、事業者、生産者など現場の声を聞く必要があるが、連携が十分取れていない。△市内に雇用の場がないわけではないが、マッチングがうまくないためか、人が集まらない。△市内の農作物を買い上げる核となる場所があれば、雇用も生まれ、経済の循環が生まれるのではないかと。

〈都市整備・土木部会〉

▲山林の土地は、荒れていることもあり境界を決めるのが非常に困難で、他の事業にも影響している。▲山林の土地を所有していることを自覚していない所有者も多く、特定も困難である。▲市の事業推進のための用地取得が、協議を経た上でも反対や批判が多く、難航する。▲公営住宅、道路、トンネル、橋梁、水道など公共施設について、いずれの分野においても老朽化が進行し、維持管理が困難になっている。▲技術職が全般的に人員不足で、特に専門性の高い分野では、職員で対応できなくなっている。△「地籍調査」という事業の位置づけを明確にしないと、公共事業、防災、農林業など、多様な分野の事業の効果が上がらない。△専門的見地から、施設の維持管理について優先順位を判断し、「身の丈にあった」運営をすべき。

〈教育部会〉

▲公民館や体育館、給食センターなどの諸施設の老朽化が進み、十分なメンテナンスや耐震化ができていない。▲小学校の統廃合などで使わなくなった施設や、今後使わなくなる施設の有効活用を考えるべきである。▲様々な市民団体が活動しているが、市職員が支援しなければならぬものも多く、本来業務を圧迫する一因になっている。▲資格者も含め職員が人員不足であり、市民に迷惑をかける状況も生まれている。▲人員不足であるにも関わらず、行政職と技能職の作業分担などで臨機応変な対応がしづらい状況がある。▲文化財は重要な観光資源であるにも関わらず、文化財と観光の部署の対応の線引きが明確でないため、活用が不十分である。▲文化財や伝統工芸を引き継ぐ方々の高齢化が進んでいるが、後継者が育っていない。△公民館では事業（講座）がマンネリ化しており、利用者も固定化している。△図書館は、生涯学習の場としての役割が十分果たせていない。△市域が広いにもかかわらず公共交通が不十分で、施設の効率的な運用ができていない。△保護者の教育に関するニーズが変わっていると同時に、家庭の「子育て力」が低下している。△市内各施設の整備については、長期の計画を立てているはずである。△質の高い教育・保育のための人材確保を安定的に行う必要がある。△町並み保存が面的に行われているため、時間が経過すると反対意見が表面化してくる。

《参考》 宇陀市民憲章（平成 20 年 12 月 9 日施行）

宇陀市は、記紀万葉の風が高原の緑をわたる、輝く歴史と豊かな文化の息づくまちです。かけがえのない生命であるわたくし達は、宇陀市民としての誇りと責任を胸に、一人ひとりが未来への限りない発展を願い、この憲章を定めます。

1 すこやかな心とからだを保ち、だれもが生きがいを見いだせるまちを育てます。

1 共に支え合い、互いの尊厳を大切にす、あたたかいまちを創ります。

1 人と自然が共生しひびき合う、やすらぎに満ちたまちを守ります。

1 歴史や先人の英知に学び、文化と産業の伸展する、活力あるまちを目ざします。

《参考》 宇陀市のまちづくりの基本理念条例（平成 26 年 3 月 24 日）

（目的）

第 1 条 この条例は、より良い地域社会の実現を目指し、まちづくりの基本理念を明らかにするとともに、だれもが住みたい、住み続けたいと心から思える、健康で安心して生活できる、住民が主役のまちづくりを推進することを目的とします。

（定義）

第 2 条 この条例では、次の各号に掲げる用語の意味は、当該各号のとおりとします。

- (1) 住民 市内に在住、在勤又は在学する個人及び市内で活動する法人その他の団体をいいます。
- (2) まちづくり協議会 この条例による基本理念に沿ってまちづくりの活動を行うため、住民を構成員とし、一定のまとまりのある地域を基本とした規模で設立し、市が認定した団体をいいます。

（まちづくりの主体）

第 3 条 住民は、まちづくりの主体であって、相互に協力しながら、個性豊かで活力に満ちた地域社会を形成するため、市と協働してまちづくりの推進に努めるものとしてします。

（基本理念）

第 4 条 宇陀市のまちづくりの基本理念は、次のとおりとします。

- (1) 住民自らが主体となってまちづくりに参加し、市及び住民が相互の責任と信頼の下に、協働して行う。
- (2) 住民の発意により、地域で話し合いの場を設け、主体的かつ継続して課題解決に取り組む。
- (3) 住民全体の幸福が実現され、次世代へと継承していくため、総合的かつ計画的に行う。

（市の役割）

第 5 条 市は、前条に定める基本理念にしたがって、まちづくりについて総合的な施策を行います。

2 市は、住民が主役のまちづくりについて意識の高揚を図るとともに、住民が行うまちづくりのための事業や活動に協力し、様々な分野で住民参加型のまちづくりを推進します。

（住民の役割）

第 6 条 住民は、まちづくりのために市が行う総合的な施策に対して、積極的な提案や活動を行うよう努めます。

（まちづくり協議会）

第 7 条 住民は、まちづくりの活動を推進するため、まちづくり協議会(以下「協議会」といいます。)を設置することができます。

- 2 協議会はその認定を受けるには、規則で定めるところにより、申請を必要とします。
- 3 協議会は、基本理念にしたがって、地域のまちづくりの事業計画を立案し、その実践に取り組むほか、市全体のまちづくりについて、市に対して提案することができます。
- 4 協議会は、自らの責任において自主的に活動するものとしてします。

附 則

この条例は、公布の日から施行します。